

「新しい東北」官民連携推進協議会

**令和6年度
意見交換会(第1回)**

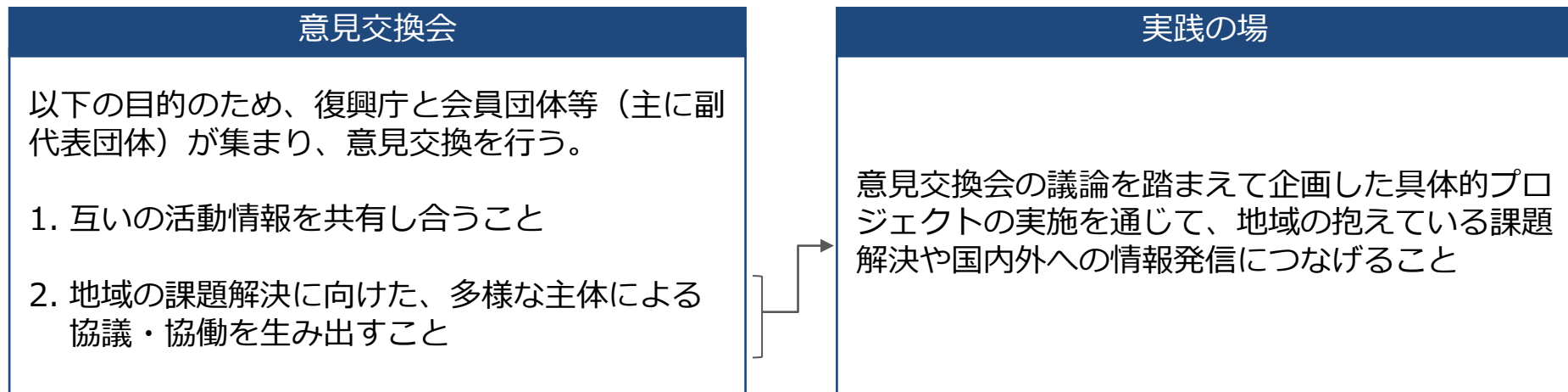
宮城県

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

2024年7月3日

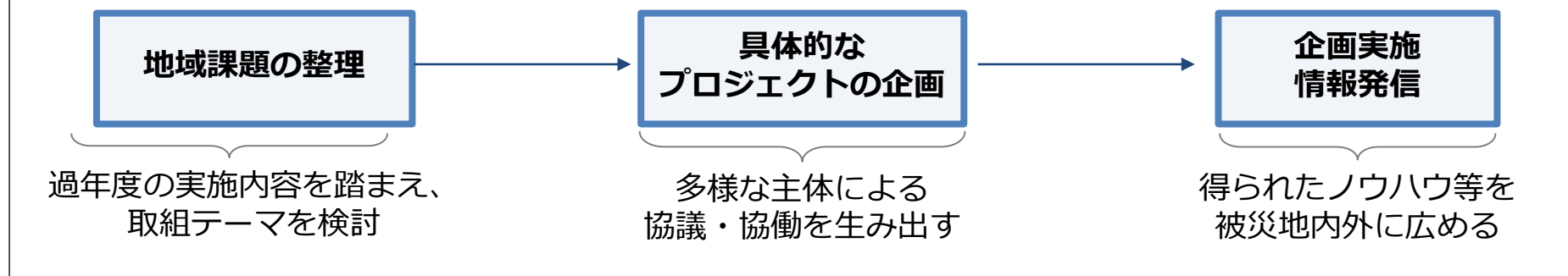
1. 意見交換会・実践の場の全体像

■ 意見交換会・実践の場の位置づけについて



■ 今年度の進め方について

- ・ 協議会の運営、意見交換会・実践の場の枠組みを用いた議論・推進の取組を継続
- ・ 昨年度と同様に、**具体的なプロジェクトの企画・実施を通じて、多様な主体による協議・協働を生み出す**
- ・ 単年度のためのイベント実施に終わるのではなく、**企画にかかわった方の継続的な関係性の構築など、地域や被災地外に何か（＝ノウハウ）を残す**ことができるような取組を目指す



● 2. 過年度実施状況：全体像

- 一昨年度より2025年の大阪・関西万博、各種MICE等を見据えた、宮城県沿岸地域におけるエクスカージョンプログラム造成の取組を進めてきた。**観光分野に着目して取組を実施**
- 実践の場では、観光振興ということを考え、インバウンド・個人旅行者等も見越して、東北地方の魅力があるスポット・コンテンツの磨き上げや効果的な情報発信を行うワークショップを行った。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
テーマ	セクター間連携による地域課題解決	沿岸地域の仕事の担い手不足解消（特に東松島市の観光分野）	東日本大震災から10年目にあたって	地域の魅力の磨き上げ	持続可能な地域文化の継承と磨き上げ	インバウンド・個人客等も見越した観光振興（魅力発信）
実践の場	「南三陸をつなげる30人」（南三陸町） 南三陸町内外の約30人が集まりフューチャーセッションを通じて、南三陸の将来像や、課題解決に向けたセクター間連携の在り方を検討	「牡蠣で東松島を盛り上げよう！～牡蠣を観光まちづくりのシンボルに～」（東松島市） 東松島の民間企業・NPO・住民が連携して取り組む“観光×SDGsの企画”を検討し、実行計画案を作成（地域一体となって観光まちづくりを行う枠組みを構築）	「みやぎ復興官民連携フォーラム～東日本大震災10年目の今、復興をきっかけに生まれた『連携』の姿とその将来像を考える～」 東日本大震災から今までに実施した官民連携による先駆的な取組事例に焦点を当て、総括を行うとともに、現在進行形の復興活動や今後の災害対応等に資するノウハウ・将来像を検討	「『学ぶ旅』と旅行者データ活用による観光振興 座談会」（石巻市） 「多様な事業者が関与する「観光」をテーマとした推進」を切り口に、地域の課題に挑戦している事業者の観光コンテンツの磨き上げやデータ利活用について協議。 これら協議の結果を観光事業者へ発信し意見交換をする場として開催。	「宮城県沿岸地域エクスカージョンプログラムモニタリングツアー」 仙台港周辺賑わい創出コンソーシアムとともに、行政関係者や学者、研究者など知識層を主なターゲットとして想定し、宮城県の被災・復興の状況の理解を深め、防災に関する意識を高めるためのモニタリングツアーを実施。	宮城県沿岸地域「エクスカージョンプログラム」の具体化・商品化に向けた試行 宮城県立松島高等学校観光科との取組 「新しい東北」みやぎ復興ツーリズムフォーラム～未来につなぐ 東北のものがたり～への参加

● 3. 過年度実施状況：令和5年度の取組詳細

○ エクスカーションプログラム施行結果

(1) 受注型企画旅行（仙台港周辺賑わい創出コンソーシアム、東北大学の御協力により**実現**）

開催日時	会議等主催団体	会議等名称	料金	参加者属性	参加人数	旅程
12/1（金） 8:30～15:15	仙台港周辺賑わい創出コンソーシアム	支店長・幹部研修	¥15,800	支店長・幹部	7名	仙台駅＝ハーバーハウスかなめ＝キリンビール仙台工場＝三井アウトレットパーク仙台港＝仙台駅
12/8（金） 12:00～17:00	東北大学	第13回 巨大津波災害に関する合同研究集会 巡検プログラム	¥8,000	教員・学生・研究者	26名	東北大学＝キリンビール仙台工場＝荒浜小学校＝仙台駅

(2) 募集型企画旅行（最少催行人数に達せず**不催行**）⇒ (3) のモニタリングツアーを実施

募集日時	周知期間	主な声掛け先	募集人数 (最少催行人数)	料金	旅程
11/25（土）	10/31～11/19	東北外語観光専門学校	20名（15名）	¥19,800 (日英通訳付き)	仙台駅＝門脇小学校＝ハーバーハウスかなめ（追込み漁・牡蠣むき・地元特産物ランチ）＝仙台うみの杜水族館（ガイド付きバックヤードツアー）＝仙台駅
12/3（日）	10/26～11/27	旅行エージェント（ツーリズムEXPOジャパンでの配布等） 内陸部のNPO職員	20名（15名）	¥17,800	

(3) 訪日外国人向けモニタリングツアー

開催日時	参加者	旅程
12/19（火）	台湾・タイ・英語圏の通訳ガイド3名	仙台駅＝門脇小学校＝ハーバーハウスかなめ（追込み漁・牡蠣むき・地元特産物ランチ）＝仙台うみの杜水族館（ガイド付きバックヤードツアー）＝仙台駅

(4) 会議主催者と調整を行ったが断念

開催日時	会議等主催団体	会議等名称	参加者属性	断念理由
10/14（土）	宮城県公民館連絡協議会ほか	第45回全国公民館研究集会・令和5年度東北地区社会教育研究大会・第68回東北地区公民館大会宮城大会	行政関係者	調整の結果、事前告知不可とのことであり断念
12/11（月）	東北大学日本学国際共同大学院プログラム	The Fifth Tohoku Conference on Global Japanese Studies	教員・学生・研究者	

● 3. 過年度実施状況：令和5年度の取組詳細

タイトル	「新しい東北」みやぎ復興ツーリズムフォーラム ～未来につなぐ 東北のものがたり～	開催日時	12/26（火）13:30～16:00
		開催場所	東北大学片平さくらホール2階会議室(仙台市)
企画趣旨	・「点」として発信されていることの多い観光コンテンツについて、震災からの復興の物語や被災地の想いを主観的に伝え、人と人の、人と場所のつながりを生み出す「面」としてのコンテンツへと磨き上げるためにはどのようにすればよいのか、MICE関係者や将来の観光産業の担い手とヴィジョンを共有するためのフォーラムを開催 ・フォーラムの中では、今年度を「具体化・商品化に向けた試行の年度」と位置づけ取組んできた、宮城県におけるエクスカーションプログラムの実施状況を報告するとともに、東北地方に人（特に個人旅行者）を呼び込むコンテンツの情報発信の在り方を探るべく、県内高校と連携して実施した招待状（TOHOKU Waltz & Invitation Card）作成ワークショップの事例を紹介		
参加者数	56名		
実施内容	・開会（開会挨拶／開催趣旨説明） ・基調講演 ～宮城県における観光・震災復興の現状～ 登壇者：宮城県復興・危機管理部復興支援・伝承課長 樋口 保 氏 ・事業紹介 ～宮城県内エクスカーションプログラムについて～ 登壇者：株式会社たびむすび代表取締役 稲葉 雅子 氏／協議会事務局 ・パネルディスカッション ～みやぎから届け！未来のツーリズムを支えるものがたりの作りかた～ ファシリテーター：JTB総合研究所客員研究員 後藤 直哉 氏 パネリスト：JTB総合研究所主席研究員・ アドベンチャーツーリズム推進プロジェクト長 山下 真輝 氏 宮城県観光連盟事務局次長・ みやぎ教育旅行等コーディネート支援センターセンター長 三浦 均 氏 株式会社みらい旅くらぶ代表取締役 高谷 尚嗣 氏 株式会社たびむすび代表取締役 稲葉 雅子 氏 宮城県 復興・危機管理部復興支援・伝承課長 樋口 保 氏 ・事例紹介 宮城県松島高等学校観光科との連携による取組 ゲスト：宮城県松島高等学校観光科有志の皆様 ・閉会（閉会挨拶）		

今年度は以下を実施

- ・エクスカーションプログラム2本
- ・訪日外国人向けモニタリングツアー1本

11月～12月にかけて、松島高校の学生7名に参加いただき、地域内外の誰かに向けた招待状（TOHOKU Waltz & Invitation Card）作成のWSを開催。

● 3. 過年度実施状況：令和5年度の取組詳細

令和5年度実施結果に基づいた次年度への取り組みについて

次年度の取組について

- ・ エスカーションプログラム催行の難しさ・みやぎ復興ツーリズムフォーラム開催目的も同様に課題点として認識している。
- ・ 宮城県松島高等学校観光科と取り組んだ招待状の取組について、次年度は、福島県・岩手県の学校とも連携も含めながら3県合同のワークショップとして別途、継続していくべき方向で合意を頂いている。こちらは、大阪万博をひとつのマイルストーンとした取組に発展させ、取組を進めていくこととする。

全体として、インバウンドの中でどのような層をターゲットとするか、新しい東北の姿としてどのような姿を見せていくかといった点に関する検討が必要との意見や、官の力を借りないと実現できない高付加価値で話題性のある特別感のあるコンテンツを考案する、観光に関する関係者を集めて、腰を据えて意見交換を行う場を設ける意見も挙げられており、具体案について検討を進めていく。

- ・ 令和7年度が協議会の最終年度とするならば今後、どうするか 3県合同でのイベントも検討しつつ、令和8年度以降の自走も見据えた取組を協議していければと考えております。
- ・ 今回、イベント運営事業（会議運営・実践の場・招待状WS）を 株式会社読売エージェンシーが取り扱うこととなった。昨年度までの良い部分を継承しながら進めていきたいと考えているので、引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。

● 4. 今年度の取組方針

今年度の取組方針（企画の方向性）

○ 大阪・関西万博を見据えたインバウンド獲得

- 県内学生・在住外国人の参加による、**インバウンド向けコースの考案。**
- ワークショップ・モニターツアー参加者が震災遺構、復興軌跡を学び、**震災の風化を防ぎ、場所や人物から新たな観光資源を見出す。**
- ワークショップ・モニターツアー参加者の理解力を高め、**次世代の新たな語り部**として観光事業参加の機会を作る。

<イベントタイトル>

「STAND OUT 宮城（スタンドアウトみやぎ）」

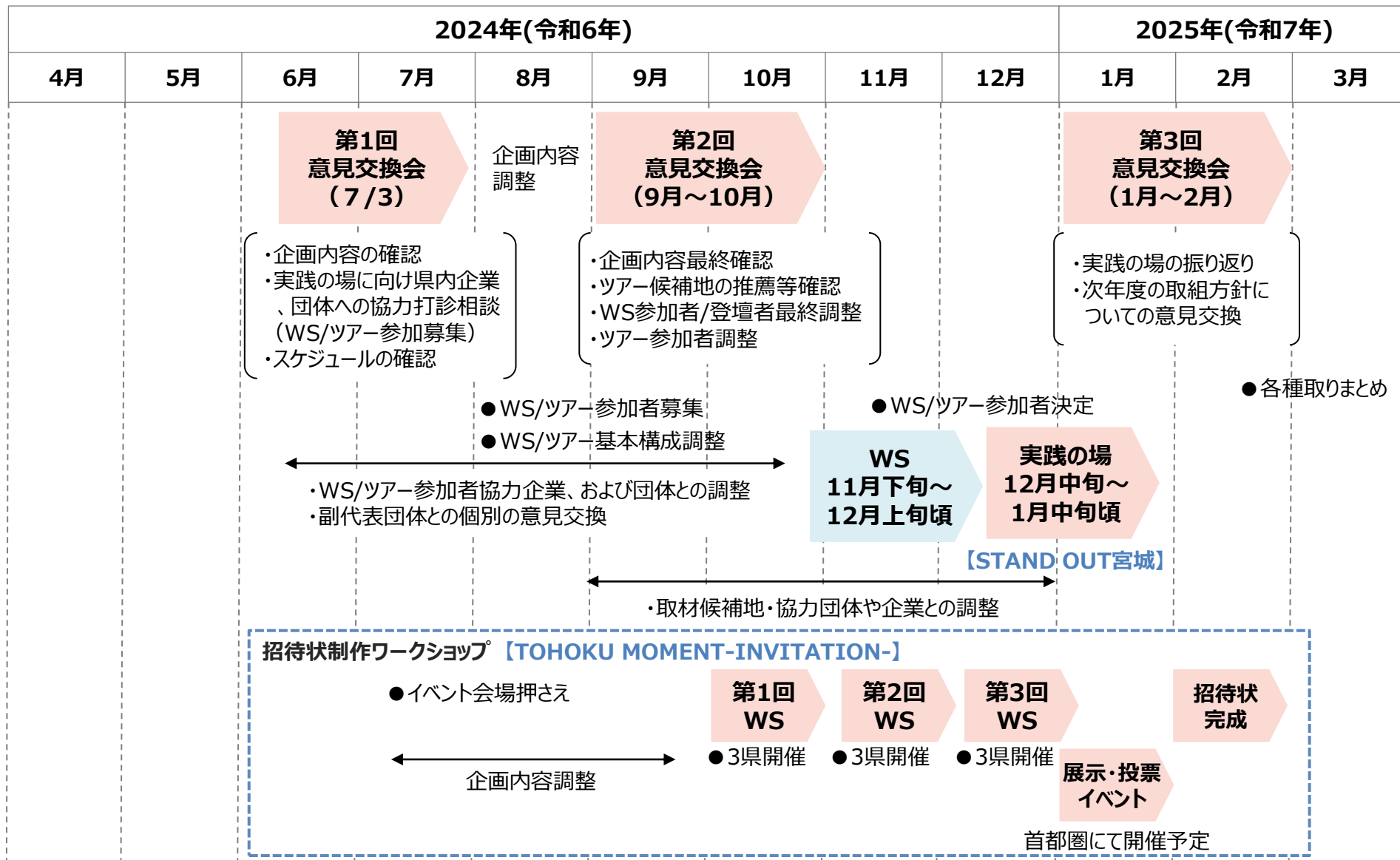
※STAND OUT = 「注目を浴びる」・「目立つ」を意味。

**次世代のガイド（語り部）を育成し、観光コンテンツの磨き上げと
醸成活動からインバウンドへの訴求に繋げる**

学生と在住外国人が共同で、宮城県の震災の軌跡を学び、新しい発見をし
県による大阪・関西万博への商品登録（ツアー登録）を実現させるためのツアー構成を考案

● 4. 意見交換会・実践の場のスケジュール

■ 今年度の意見交換会・実践の場のスケジュール



※スケジュールは今後の議論状況等により、変更の可能性がございます。

● 5. 今年度の取組内容について

①「STAND OUT 宮城」 ワークショップ	
3つのグループに分かれてワークショップを開催し、宮城県の新しい観光地・復興の姿・地元住民との交流などを、学生と外国人の目線を通して構成します。	
開催時期	・ 2024年11月下旬～12月上旬の開催想定（1日開催）
会場	・ 宮城復興局 仙台支所内スペースを想定
内容	・ 実践の場でのモニターツアーコースのベース構成を行う ・ 想定コース：仙台・松島エリア／気仙沼・南三陸エリア／石巻・女川エリア 3コースを設定 ・ ツアーテーマ：各コースにはツアーテーマを盛り込んだエリアや場所を設定 ※①自然・歴史 ②食文化・グルメ ③震災以降・復興軌跡 ④人柄・ふれあい
主な参加者	・ WS参加者12名想定（県内学生9名・県内在住外国人3名）※次世代ガイド候補者 ・ 地元アドバイザー5名想定（宮城県のまちづくり・地域復興活動をしている方） ・ ゲストスピーカー1名想定（WSの冒頭講習対応）
目的	・ 参加者の宮城県の観光及び復興についての理解度向上 ・ モニタツアーコースの候補地選出、ベース構成の設定
実施内容	■ 当日の進行イメージ <10min> 「企画の趣旨説明(復興庁ご担当者様想定)」 <50min> 「宮城県の復興の姿・観光状況の説明」 ※ゲストスピーカー想定 <10min> 休憩 <90min> チームに分かれ、各エリアのツアーを構成 ・ 学生の方より観光スポットをピックアップし、チーム内で意見交換をします。 ・ 外国人の方は外国人視点からの新しい魅力ポイントを補足します。 <10min> 休憩 <30min> 地元アドバイザーから各ツアーへのアドバイス・調整 ツアーコースのベース構成完成

● 5. 今年度の取組内容について

②「STAND OUT 宮城」 モニターツアー

震災からの立ち上がった復興の姿や美しい景観・文化・美食・人柄など宮城県の魅力を感じてもらい、日本国内だけではなく、世界の注目を浴びる「STAND OUT 宮城」を目指します。

開催時期	・ 2024年12月中旬～2025年1月中旬の開催想定（1日開催）
会場	・ 宮城復興局 仙台支所内スペースを想定
内容	・ ワークショップで設定したコースのモニターツアー実施 ・ 次世代ガイドの育成と共にインバウンド目線に合わせた新しい観光地の開拓
主な参加者	・ ツアー参加者：県内企業在職中の外国人社員30名（各コース10名） ・ 次世代ガイド（WS参加者）：県内学生1～2名・県内在住外国人1～2名 ・ ガイドサポーター：宮城県の語り部や宮城県観光ボランティアガイド1～2名
実施内容	■当日の進行イメージ <30min> ガイドサポーターによる次世代ガイドへの事前オリエン <4～6h> 次世代ガイドは、ツアー参加者を案内 ・サポーターは次世代ガイドを補助。 ・ツアー参加者の日本語レベルにより、 必要に応じて逐次通訳者同行 <90min> ツアー終了後、ツアーに関する意見交換会やアンケートを実施 ・ツアーの修正点をまとめ、最終のコース設定を行う

ワークショップとモニターツアーを通して様々なシチュエーションやストーリーに沿ったコースを設定し、1泊2日・2泊3日など滞在期間を想定したプランを考案します。

● 5. 今年度の取組内容について

■ 確認事項

STAND OUT宮城

ワークショップ/ モニターツアー

- 県内企業、団体への参加者募集協力の打診について、紹介いただける企業・団体の確認
 - ・ワークショップ参加者（次世代ガイド）：県内学生、県内在住外国人
 - ・モニターツアー参加者：県内在住外国人
 - ・取材対象の紹介：ご紹介いただける方、こちらがアプローチしたい方のご紹介
- ※ 県内学生は、高校生・大学生・専門学生を想定
- ※ 県内在住外国人：県内企業就業者を想定
- エリア設定について
 - ・現状の3エリア設定（仙台・松島エリア／気仙沼・南三陸エリア／石巻・女川エリア）
各エリアに下記テーマ設定のコンテンツを盛り込む想定。
- テーマ設定について
 - ・現状のテーマ設定（①自然・歴史 ②食文化・グルメ ③震災以降・復興軌跡 ④人柄・ふれあい）
- 「ワークショップ」「実践の場」開催日程の調整
 - ・宮城復興局 仙台支所様との会場調整

招待状制作 ワークショップ

- 開催スペースをご紹介いただけるか
 - ・現状は仙台駅近隣の会議スペースを想定
- 銘菓賞品の準備について
 - ・推薦される商品、紹介いただける購入先
- 必要に応じて、各所観光協会担当者の紹介

■ イベント事務局アドレス（株式会社読売エージェンシー）

new_tohoku_event@yomiuri-ag.co.jp 担当者：鈴木、菊池

● 6. 招待状作成ワークショップについて

■ 招待状作成ワークショップ TOHOKU MOMENT - INVITATION Workshop -	
東北3県の自然の美しさ、文化、そして震災からの復興へ向かう生活の一瞬一瞬を捉え、人々に深い印象を与えることで、国内外から東北3県に人を引き付ける全世界に向けた招待状の制作を行う	
開催時期	・ 1回目：2024年10月想定（岩手・宮城・福島） ・ 2回目：2024年11月想定（岩手・宮城・福島） ・ 3回目：2024年12月想定（岩手・宮城・福島）
会場	・ 岩手県/盛岡市内、宮城県/仙台市内、福島県/福島市内
内容	各県ごとにワークショップ開催し、招待状の構成などを考案する。観光地の他、企業や人物にもクローズアップすることをテーマとする。各県とも観光地を10箇所程度、企業や人物も各1コンテンツ程度を構成する。
主な参加者	・ 各県20名程度の参加者を応募
実施内容 (案)	・ 1回目：候補地の洗い出し・紹介企業や人物のイメージ設定・担当分け ・ 2回目：候補地・企業・人物の決定・文字構成案・ページネーション構成 ・ 3回目：企業・人物の取材・文字構成・最終調整（対応言語数調整中）



■ TOHOKU MOMENT – EVENT -	
首都圏のイベントスペースにて、ワークショップで校正したページをパネル化した展示イベントを開催。魅力を感じる場所に投票してもらうことでインバウンドや、イベント開催エリアの方たちの目線も通して、魅力的な東北3県のガイドブックを完成させる	
開催時期	・ 2025年1月中旬～2月上旬想定
会場	・ 東京（渋谷など）など首都圏1会場にて2日間の開催を想定
内容	・ 3県の校正ページを拡大（A4～B3サイズ程度）展示する。 ・ それぞれに投票用ナンバリングを実施し掲出します。※企業・人物紹介パネルは投票対象から除外する。 ・ 投票完了画面をスタッフに見せて、3県の銘菓が当たるガラガラ抽選会に参加いただく。